

春休み @ストラスブール大学 フランス語短期語学研修



ストラスブールのシンボル
ノートルダム大聖堂



景観の美しいブティック・フランス

今年度もフランス、ストラスブール大学でのフランス語短期語学研修が行われます。この研修は、言語文化科目Ⅲ「文化事情(フランス)2」として開講され、「文化事情(フランス)1」と合わせて履修することにより単位認定されます。

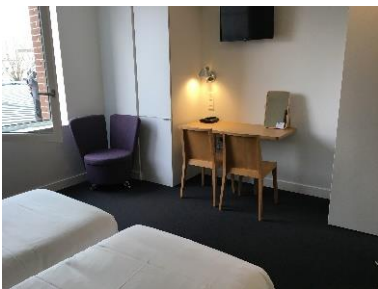
期間 2020年3月8日(日)~22日(日)の2週間(予定)

定員 20名

- 参加資格**
1. 学部1、2年生
 2. 本学教養教育院にて「フランス語」科目の規定の単位を取得済み
 3. 秋1期木曜5限「文化事情(フランス)1」を履修または履修済



授業風景



清潔で機能的な寝室

費用

12万円程度(以下1,2,3を含む;航空券は含まれない)

1. 学費:
ストラスブール大学附属語学学校にて授業(月から金)、市内見学、ヨーロッパ議会見学、美術館見学、郊外散策など
2. 宿泊:
レジデンス・アミテル、語学学校から徒歩15分
1人部屋または2人部屋 朝食つき
3. 家庭訪問、ストラスブール大学の学生との交流

費用補助

日本学生支援機構(1人につき標準で8万円、最大で16人)および名古屋大学から補助を得られる可能性がある。(成績要件あり)

説明会

9月27日(金)の5限に全学教育棟Call3教室にて、研修と履修登録に関する説明会を行います。必ず出席のこと。授業などのやむを得ない事情により出席できない参加希望者は、必ず前もって研修担当の奥田智樹教員にメール t-okuda@nagoya-u.jp で連絡すること。事前連絡なく欠席すると、選考において不利になります。

★詳細や昨年度の研修の様子については、「名古屋大学 フランス語小部会のHP」<http://french.ilas.nagoya-u.ac.jp/> や、言語文化科目Ⅲ「文化事情(フランス)1、2」のシラバスをご参照下さい。教養教育院の掲示にもご注意ください。



遊覧船(Bateau Mouche)で市内散策



ストラスブール駅



町中はトラムで移動



ヨーロッパ議会見学

シラバス抜粋

言語文化科目Ⅲ「文化事情(フランス)1」秋1期 木曜5限 全学教育棟1階 C11

❖ 履修条件あるいは関連する科目等

フランス・ストラスブール大学での短期語学研修(2020年3月8日(日)~22日(日)実施予定)に参加希望の学生を主対象とするが、上記研修に参加を希望しない学生の受講も大いに歓迎する。

❖ 授業内容:本学専任教員によるオムニバス形式で行う。

- ① 10月3日:小栗栖 等(人文学研究科)「中世フランス文学の話」
- ② 10月10日:尾上 順(工学研究科)「ワインのケミストリー」
- ③ 10月17日:古橋 忠晃(総合保健体育科学センター)
「現代のフランス青年の社会的不適応と精神医学」
- ④ 10月24日:新井 美佐子(人文学研究科)
「ジェンダーから見るフランス社会」
- ⑤ 10月31日:ニコラ・ポーメール(教養教育院)
「フランスの食文化:料理、作法、風景」
- ⑥ 11月7日:渡邊 雅子(教育発達科学研究科)
「フランスの思考表現スタイルーフランス式論文とバカロレア」
- ⑦ 11月14日:隠岐 さや香(経済学研究科)「フランス革命と科学の文化ーメートル法制定の経緯」
- ⑧ 11月21日:鶴巻 泉子(人文学研究科)「フランス社会と移民ー《フランス人》とは誰のことかー」



ヨーロッパ議会加盟国の国旗の前で

なお、本授業の単位認定には、最終(第8)講後の指定の期日までにレポートを提出することが求められる(レポート試験)。レポートの課題、分量、提出期限、提出方法等は11月下旬に通知する。

また、ストラスブール研修参加者は本授業に加え、講習「フランス語によるプレゼンテーションの方法」(90分×2回、開講日未定:12月と1月を予定)を受講すること。

❖ 成績評価の方法:出席50%、レポート試験50%。履修取り下げ制度は採用せず、以下とする。

レポート試験提出者:上記に従って、SABCFいずれかの評価とする。

レポート試験不提出者:「欠席」とする。

❖ 注意事項

本授業1単位の認定を受け、ストラスブール大学での短期語学研修を修了した学生には、「文化事情(フランス)2」の1単位が認定される(「文化事情(フランス)2」のシラバスも確認すること)。また、上記研修への参加を希望しない学生には、「成績評価の方法」に従ってSABCいずれかの評価を得た場合、本授業の1単位を認定する。